World Vision News No. 184 2016年 3月 ワールド・ビジョン ニュース

World Vision
この子を救う。未来を救う。

特集
教育を支えて、未来をつくろう
難民支援とチャイルド・スポンサーシップの現場から

子どもとお母さんの命を救うために
企業の想いをケニアにつなぐ母子保健事業

夢をかなえたチャイルド
My Dreams Come True

ケニア

東アフリカ最大の都市・ナイロビを首都に持ち、近年5～6%の高水準で経済成長している一方、世界最大級のスラム街を抱え、貧富の差が大きな問題となっている。

元チャイルドのジョン・サンコック医師(51歳)

着の身着のままトラックに乗せられ

「あの時にワールド・ビジョンがいなかったら、今の私はいません」こう語るのは、かつてチャイルド・スポンサーシップの支援を受け、夢をかなえて医師となったジョンさんです。

ジョンさんが生まれ育ったのは、ケニアのマサイ族の村。両親は学校に通ったことがなく、近所にも学校に通う子どもは少なかったと言います。「初めて学校に行った日のことをよく覚えています。10 歳のある日、着の身着のままトラックに乗せられ学校に連れて行かれました。両親は抵抗しましたが、政府の命令だということで強制的に連れていかれたのです。家族は貧しく、靴や制服を買うお金もなく、マサイ族の布だけを羽織って裸足で通学していました」

勉強を続けるうちに「新しいことを学ぶのが楽しくなった」というジョンさん。「1980 年にワールド・ビジョンが村を訪れ、チャイルドとして登録されました。新しい靴と制服が支給され、本当に嬉しかったのを覚えています」。喜びに胸躍らせながら勉強に励み、優秀な成績を修めるようになりました。

あきらめていた進学が実現、地域への恩返しを

「経済的な理由から進学をあきらめていましたが、ワールド・ビジョンが必要な奨学金を得られるよう働きかけてくれ、勉強を続けることができたのです」

やがて「自分も人の役に立ちたい」と願うようになり、“医師になる”という夢を持つようになりました。その思いを胸に大学で学び、医師となり、現在はいくつかの地域保健センターを束ねる責任者を務めています。農村に住む人々が貧しくとも必要な医療サービスを受け、健康な毎日を送れるよう日夜奮闘しています。

ジョンさんは言います、「私はただ勉強がしたくて仕方なかった少年に過ぎませんでしたが、支援により勉強を続け、医師となり、人々に恩返しできるようになりました。チャイルド・スポンサーシップの支援は確実に届き、一人の子どもの人生に大きな変革をもたらします。ぜひ日本でもたくさんの方に支援の輪に加わっていただきたいです」

ジョンさんと村の子どもたち

アフリカの支援地域でチャイルド・スポンサーを待っているチャイルドは 9500 人（2/3 現在）。チャイルド・スポンサーシップのお申込み、またチャイルドもう一人分のご支援をいただける方は、お電話ください。

0120-465-009

World Vision News No. 184
2016年 3月発行 ワールド・ビジョン ニュース
World Vision
この子を救う。未来を救う。

特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン
〒164-0012 東京都中野区本町 1-32-2ハーモニータワー 3F
TEL 03-5334-5351(平日9:30～17:00) FAX 03-5334-5359
dservice@worldvision.or.jp
www.worldvision.jp

特　集

教育を支えて、未来をつくろう

難民支援とチャイルド・スポンサーシップの現場から

教育を受けられなかった青少年が
テロ組織等に勧誘されていくという
負のサイクルを止めなければなりません
（シリア難民教育支援担当 ヨルダン駐在：渡邉スタッフ）

どうすれば学び続けられるかが課題です
（チャイルド・スポンサーシップ　アジア担当：蘇畑スタッフ）

タンザニアでは教室だけでなく
教員用住宅を作ることで
子どもの就学率が85%も改善しました
（チャイルド・スポンサーシップ
アフリカ・中南米担当：松岡スタッフ）

学校ができることによって子どもたちの表情が
どれだけ変わるかを目の当たりにしました
（南スーダン難民教育支援担当：村松スタッフ）

世界では、5800万人の学齢期の子どもが学校へ通えず、小学校を卒業できない子どもは1億人にのぼります。

昨年9月に国連総会で採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」は、「すべての人が公平に受けられる質の高い教育の完全普及と、生涯にわたって学習できる機会の向上」という目標を掲げました。紛争が原因で学校へ通えない子どもの増加や、貧困地域での教育の質の低さが、克服すべき課題として指摘されています。

すべての子どもが“豊かないのち”を生きられるようになることを目指すワールド・ビジョンにとって、教育支援は核となる活動の一つです。

教育支援の現場で、今、何が起きているのか。日々支援の現場で挑戦を続けているスタッフに聞きました。

ヨルダンでのシリア難民教育支援

ーシリア難民の数は400万人を超えましたが、そのうち62万人以上が逃れているヨルダンで、ワールド・ビジョン・ジャパン（WVJ）は、難民の子どもたちと、難民を受け入れているヨルダンのコミュニティの子どもたちのために補習授業を行っています。なぜ補習が必要なのですか？

國吉：ヨルダンに住むシリア難民の約8割は、難民キャンプではなく、ヨルダン人が暮らすコミュニティで暮らし、子どもたちはヨルダンの学校に通っています。でも、紛争で学校に行けない期間が長かったために授業に落ちこぼれたり、いじめや差別を受けて学校に通えなくなってしまう子どもが多いのです。

ーなぜ、難民だけでなく、ヨルダン人の子どもにも支援を？

國吉：大量のシリア難民の子どもたちがヨルダンの学校に通うことになったため、学校は大混雑で、授業は2部制で行われています。教育環境の激変によりヨルダン人の子どもたちの学力低下も心配されるため、支援を行っています。

エチオピアでの南スーダン難民教育支援

2011年に独立したにもかかわらず、2013年に再び内戦状態へ戻ってしまった南スーダン共和国。60万人以上が難民として国外へ逃れています。

ーヨルダンでのシリア難民支援とはどう違いますか？

村松：ヨルダン人とシリア難民が共存しようとしている環境と違い、僕が担当しているのは、南スーダン難民だけが暮らす難民キャンプ内での教育支援です。何もなかったところに学校を建てて、運営しているところが大きな違いです。

ーキャンプにはどれぐらいの難民が住んでいるんですか？

村松：2014 年 5 月には 7200 人程度だったのですが、それから 2 ～ 3 カ月で 4 万 6000 人以上になりました。キャンプ人口の 6 ～ 7 割が子どもで、WVJ の事業では、5 ～ 8 年生の 5200 人を対象にしています。

ーどんなやりがいがありますか？

村松：学校ができると聞いた子どもたちは、「いつできるの？」「いつ通えるの？」とものすごく楽しみにしてくれました。「学校に通う」ということは、子どもが安定した日常生活を送ることに直結します。荒っぽかったキャンプの様子が、学校ができてからずいぶん落ち着きました。

チャイルド・スポンサーシップによる長期支援

ーチャイルド・スポンサーシップの特徴は何でしょう？

松岡：チャイルド・スポンサーシップは、長期支援なので、支援を受ける人たちが自分で問題解決のために何が必要かを考えて実践していくことができます。

蘇畑：教育分野だけでなく、水衛生、保健、栄養、収入向上等、他のニーズにも応えながら、総合的な支援を行うので、相乗効果が生まれていると思います。

松岡：ケニアの支援地域では水衛生支援の一環として学校に井戸や給水タンクを設置しました。そうしたら、子どもたちが学校に持ってくる水を遠くまで汲みにいく必要がなくなったので、学校に通いやすくなったんですよ。

蘇畑：学校にトイレを作るのも大切ですよね。男女が別棟になっていると女の子も安心して利用できるようです。逆に女の子はそうした設備がないことが理由で学校へ行かなくなってしまうこともあるんですよ。

ジェノサイド（虐殺）後の癒しと平和への祈りを込めて表現する踊り（ルワンダ）

教育の質向上と、学び続けるためのチャレンジ

ー「持続可能な開発目標 (SDGs)」では「質の高い教育」がキーワードのようです。緊急支援で「質の高い教育」を実施するなんてとても難しそうですが…

國吉：「緊急」だからこそ「質」が大事なんです！すべてを失った難民の子どもたちが、いつか紛争が終わって国を再建するときに、そして自分の人生を歩んでいくために、未来を託せるのは教育しかないんですから。

ー「教育の質」って具体的には何を意味するのでしょう？

國吉：安全に学べる環境なのか、性別や宗教による排除はないか、学用品など必要なものはそろっているか、先生と生徒の人数の割合は適正か、先生の質や、カリキュラム（どこの国のカリキュラムをどの言葉で学ぶのか）など、緊急下の教育支援で守るべき基準が、国際的に定められています。

すべてを失った子どもたちが未来を託せるのは教育支援しかない。緊急支援だからこそ、「質」が大事なんです
（シリア難民教育支援事業担当：國吉スタッフ）

シリア難民の子どもたちと國吉スタッフ

ー学び続けるためにできることはあるのでしょうか？

蘇畑：早婚をすぐに無くすことは難しいですが、早婚のリスクや教育の重要性について啓発活動を続けています。また、中学校が遠くにあるために通うのをあきらめざるを得ない女の子も多いので、中学校のそばに女子寮を建設して中学進学をあきらめずに済むよう対策しています。

難民支援でもチャイルド・スポンサーシップでも、大切なことは変わらない。30 年後にどんな花を咲かせられるのか、可能性とパワーを秘めているのが教育支援の醍醐味です
（担当スタッフ一同）

ーなるほど。チャイルド・スポンサーシップの支援ではどのように「質」の向上を実現していますか？

松岡：教育の質を高めるためには、先生が大切です。2015 年に支援が終了したタンザニアのンゲレンゲレ地域では、教員住宅の建設を支援しました。ンゲレンゲレは遠隔地なので、赴任を避ける教師が多かったのです。教員住宅を充実させたところ、いつまでも住み続けたいという先生が出てきたぐらいです（笑）。先生の影響力は大きいです。95 年には 5%だった 7 年生（日本では中学 1年生）の就学率が、2013 年には 90%まで改善し、今では大学まで進学する生徒が出てきたんですよ。

ーアジアの状況はどうでしょう？

蘇畑：性別による排除ということで話すと、女性差別のイメージが強いバングラデシュをはじめ、初等教育で男女格差の解消が進んでいます。でも、問題はその後です。例えば、バングラデシュのビルゴンジ地域では 11～18 歳の中退率は 14.7%。女の子の場合は早婚のために退学せざるを得ない場合が多いです。

左から蘇畑スタッフ、國吉スタッフ、村松スタッフ、松岡スタッフ

ホームページから国際協力の現場で活躍するスタッフのブログを読むことができます

ワールド・ビジョン　ブログ

仮設住宅での学習支援の様子
写真提供 / ビーンズふくしま

日本では、福島子ども支援事業をスタートします！

東日本大震災の発生から約 5 年。長引く避難生活をはじめとした震災の直接的・間接的な影響は、家庭の生活基盤に影響を及ぼし、子どもたちは、暮らしや学びの環境の変化、生活の不安定化、心身のストレスなど、様々な困難や制約に今も直面しています。

このような状況にある子どもたちが、生きる力を育み豊かに成長できるための支援事業を、2016 年 4 月から福島県で、長年にわたり子ども・若者支援を行っている特定非営利活動法人ビーンズふくしまと協働で実施します。仮設住宅等で生活する子どもの学びや遊びの支援を通じた居場所作り、生活困窮家庭の子どもの生活環境改善と地域の支援体制作り等を行うことを計画しています。

塩野義製薬株式会社の訪問を歓迎するケニアのお母さんたち

子どもとお母さんの命を救うために

企業の想いをケニアにつなぐ母子保健事業

ワールド・ビジョン(WV)は、妊娠中・出産後のお母さんと赤ちゃん・子どもを同時に守る「母子保健」を様々なパートナーとともに進めています。ケニアで始まった「Mother to Mother SHIONOGI Project」(「MtoM プロジェクト」)は、塩野義製薬株式会社との連携で始まったプロジェクト。製薬会社としての強みを活かした支援をしたいという企業の想いを、WV が支援を届けるコミュニティのお母さん、事業実施のパートナーである保健行政関係者につなげ、実現します。

なぜ「母子保健」なの?

本来素晴らしい祝福であるはずの新しい命の誕生が、途上国では多くの子どもと女性にとって死と隣り合わせとなっています。世界では毎日 830 人の妊産婦が命を落とし、5歳未満で亡くなる年間590万人の子どものうち、45% は生後 1 カ月以内に命を落としています。お母さんと赤ちゃんが直面する妊娠・出産のリスクを減らすことが、母子の命を救い、子どもたちが人生を健やかに歩みだす鍵を握ります。

「Mother to Mother SHIONOGI Project」

2015 年秋、塩野義製薬株式会社の総合ビタミン剤「ポポン®S」シリーズの売り上げの一部と社員の寄付により、ケニアの母子を支援する「MtoMプロジェクト」がスタートしました。今後 3 年間、産科棟を併設した保健センターの建設、医療従事者や村落保健員の能力強化、母親グループ「Mother to Mother」を通しての地域全体への正しい保健知識に関する啓発活動等を実施します。

巡回診療に参加し、健診を終えた母子

ワールド・ビジョンだからできる支援

母子保健の支援を行い、終了後も成果を活かし続けるためには、地域の行政関係者や、支援対象であるお母さんたちと、ともに歩んでいくことが不可欠です。「M to Mプロジェクト」は、チャイルド・スポンサーシップによる包括的な支援を実施中のイララマタク地域で行います。支援地域の人々と信頼関係を築いて長期支援を行っている WVの強みを活かせる支援です。

塩野義製薬株式会社の皆さまがナロク県知事を表敬訪問

1 行政との連携

子どもやお母さんが産前・産後健診や予防接種等の保健サービスを利用しやすくするために、ケニアの国・県・地域各レベルの行政と協力します。例えば、行政が医療従事者の人件費、バイク、医薬品を提供し、WV がガソリンを支援することで、遠隔地で道路事情の悪い地域でも巡回診療を行うことができるようになります。

プロジェクトへの期待を込めた集合写真
(塩野義製薬株式会社の皆さまとイララマタク地域の人々)

2 コミュニティの人々に寄り添って

保健施設ができても、コミュニティのお母さんたちが実際に利用しなければ意味がありません。WV は、これまでの経験から得たコミュニティや家庭での意思決定プロセスに対する理解を活かして、保健施設の利用促進や啓発活動を行います。

昨年 12 月、メディア関係者向け説明会を開催

3 他分野の活動と響きあって

子どもとお母さんの命を守るためには、水・衛生環境の改善、学校での教育も鍵となります。複数の分野にまたがり包括的に支援をするチャイルド・スポンサーシップと母子保健に特化した「M to M プロジェクト」が相乗効果を生み、母子の健康が守られていきます。

塩野義製薬株式会社　海外事業本部　課長補佐
Mother to Mother プロジェクトリーダー
土田 愛さん

「M to M プロジェクト」は、かつて青年海外協力隊として赴任したケニアで直面した現実に対して、私の勤める塩野義製薬株式会社の強みを活かしてできることは何かと考え続け、会社に提案したことから生まれました。今回ケニアを訪問し、WV が政府・行政・他団体から信頼され、コミュニティに受け入れられ活動を進めていることが確認できました。塩野義製薬、WV、現地の人々の力を合わせて、このプロジェクトをぜひ成功させたいと思います。

ワールド・ビジョン・ジャパン
ドナーエンゲージメント課
谷村 美能里

事業地で出会ったお母さんたちは、その眼差しも肩に回された細い腕にも力がありました。企業の想いを託していただき、母の強さを引き出し、母子の健康改善につなげる当プロジェクトに、組織を超えたチームの一員として従事できることはWVスタッフ、同時に、一人の母としてとても光栄です。全力で取り組みます。

支援地域のことをもっと知りたい！

エチオピアの支援と暮らし

現在ワールド･ビジョン･ジャパン（WVJ）では、22カ国、51の地域で暮らす約 6 万人の子どもたちに、チャイルド・スポンサーシップのプログラムを通して支援を届けています。「支援地域に住む子どもたちはどんな所に住んでいるの？」という支援者の皆さまからの声にお応えしたく、今回はエチオピアからゴンダール･ズリア地域とデラ地域の様子を紹介します。

❶ ゴンダール･ズリア ADP
❷ デラ ADP
（ADP＝地域開発プログラム）

アフリカの北東部に位置する内陸国。イタリア領となった1936 年からの 5 年間を除いて植民地化されることなく、独立を保ってきました。公用語はアムハラ語。WVJ の支援地域は標高 2000 メートル以上の高地に位置します。

広がる支援の輪

エチオピアの課題と支援

利用者増えてます！井戸とトイレ

支援地域には水道がなく、以前はトイレも普及していませんでした。このため、地域の人々は水汲みのために毎日長距離を歩かなければならず、汚水が原因で発生する下痢等の病気も問題になっていました。2006 年にこの両地域で支援を始めて以来、多くの井戸を作るとともに、野外排泄の問題点を人々に説明し、トイレの設置を支援してきました。この結果、安全な飲み水を得られる住民の割合は約 76%（デラ地域）、トイレを利用している人の割合は約 91%（ゴンダール・ズリア地域）にまで改善してきています。トイレの大切さを知り、手作りのトイレを設置する人が増えています。入り口の容器に入った水でトイレの後に手を洗う習慣も、支援の結果普及しました。

井戸ができて喜ぶ子どもたち。水運びは子どもたちも手伝います

住民が作ったトイレの入口。
黄色い水タンクは使用後に手を洗うためのもの

教室は大混雑！

地域の小学校は、経済的事情で入学が遅れたり、学年末テストに合格できず進級できなかったりという理由で、様々な年齢の子どもたちが同じ学年で学ぶことも珍しくありません。午前・午後の入れ替え制で授業を行っていますが、それでも 1 教室あたりの生徒数が多すぎるという問題がありました。このため校舎の増設や机、イスの整備などの支援を行っています。また、教育の質向上のため、教師に対する教授法や教材作成についての研修も行ってきました。この結果、読み書き計算ができる小学校 2～ 5 年生の割合は、約 92%（2014 年）まで向上しています。

ぎゅうぎゅうの教室でも元気な子どもたち

エチオピアの暮らし

食事 なにを食べているの？

日本が支援している地域では、主食はインジェラとよばれるクレープ状のパンです。インジェラにおかずをのせたり、または何ものせずにインジェラだけで食べたりします。インジェラの原料は、テフという栄養価の高い穀物です。

おかずは豆、肉、野菜などのシチューや唐辛子等

テフはこんな小さな粒です

◎インジェラの作り方

日本では、材料のテフがなかなか手に入りませんが、そば粉を使ってクレープを作るのと同じように、焼く前によく発酵させると味が似ます。

・テフ 1.5 カップ
・水 2 カップ
・ドライイースト（適量）
・塩と油を少々

材料をよく混ぜて、室温で数日発酵させてから片面だけを焼いてできあがり。とても簡単です！

エチオピア流　お･も･て･な･し

コーヒー豆の生産地として知られているエチオピアでは、日本の茶道のように、コーヒーを入れて客をおもてなしする作法があります。英語では「コーヒーセレモニー」と呼ばれています。

コーヒー豆を煎る作業から始まります。その煙といい香りが､近所の人たちに「コーヒー淹れますよ！」の合図だそうです。煎った豆が冷めるまで豆の香りを楽しみます。

煎った豆が冷めたら、細かく砕いて煮出します。コーヒーの粉がポットの底に沈むのを待ってからカップに注ぎます。草を敷き、自然を演出します。

おいしいコーヒーのできあがりです。ただコーヒーを入れるのではなく、プロセスや香りなどの演出も楽しむところが、日本の茶道に似ていますね。

エチオピアカレンダーの不思議

エチオピアでは、日本を含め多くの国で使われているグレゴリオ暦とは異なる独自の暦が使われています。エチオピア暦はグレゴリオ暦より7､8年遅れており、月日もずれています。

グレゴリオ暦		エチオピア暦
2016年 4月1日	→	2008年 7月23日

チャイルドからの手紙に、7、8年前の日付が書かれていても驚かないでくださいね。時刻の数え方も異なっており、日本の朝 6 時を 0 時として数えます。

チャイルドの名前の不思議

エチオピア人の名前は、「本人の名前 ＋ 父親の名前」で構成されています。ファミリーネームは存在せず、結婚しても名前は変わりません。支援者の皆さまに、チャイルドの名前を

BENTI, Hunde

とお知らせしている場合「, 」の前の「BENTI」がお父さんの名前、「Hunde」が本人の名前です。

ホームページで他国の支援地域の様子をお伝えしています。
ワールド・ビジョン　支援地域

「おかずなしお弁当」で途上国を支援

幼稚園、保育園の子どもたちから大学生まで、全国の教育機関がチャイルド・スポンサーシップにご協力くださっており、支援金の集め方もさまざまです。
兵庫県にある愛徳学園小学校では、毎週月曜日を「おかずなし弁当の日」とし、4年生以上の児童が、おかず分のお金一口 100円ずつを持ち寄り、カンボジア、ウガンダ、エルサルバドルの子どもたちを支援する「もう一人の友達運動」を実施しています。

24年目を迎える「もう一人の友達運動」

「世界の子どもたちに目を向け、少しの痛みと自分の幸せを分かち合いたいと願って始めた『もう一人の友達運動』は、ご家族の協力を得ながら、今年で24 年目を迎えます。最近は、低学年からの自主的な参加も多くなり、健康で通学できること、勉強できることへの感謝を込めた募金、誕生日ケーキを我慢した分の募金等も寄せられるようになりました。
子どもたちは、『月曜日は、お腹が減るけれど、もっと大変な人のことを思うと我慢できる』と言います。分かち合う行為から、思いやりと優しさが育まれ、世界の平和へとつながっていくことを願っています」と担当の保坂先生は話してくださいました。

教室に支援しているチャイルドの写真を貼ってくださっています

「G7サミット市民社会プラットフォーム」では、海外ゲストを迎え、
G7への具体的な働きかけについて意見交換を実施（写真提供 / 動く→動かす）

伊勢志摩サミットにむけて

近年のサミット（主要国首脳会議）では、政治問題だけでなく、様々な地球規模の課題についても議論されます。その議論がより現実を踏まえたものとなるよう、現場で課題に取り組む市民社会とサミット議長国との対話が、サミットに先立って行われています。
ワールド・ビジョン・ジャパンは、国内の NGO が結集して昨年 11 月に立ち上げた「G7サミット市民社会プラットフォーム」の一員として、様々な形で政府へ働きかけています。子どもの健やかな成長を実現するために適切な議題が設定され、首脳宣言での明確な表明と確実な実施がなされるよう、活動を続けます。

ワールド・ビジョン　アドボカシー

イベントに参加してみませんか？

カフェ WVカフェ
チャイルド・スポンサー同士が交流できるイベント「WVカフェ」を全国各地で開催しています。支援活動の報告や支援地訪問の体験談を聞くことができます。ご家族ご友人をお誘い合わせのうえ、ぜひお越しください。

講座 「国際協力講座」を開講します！
「国際協力講座～途上国の子ども支援を知ろう」は、チャイルド・スポンサーシップに参加して間もない方を対象に、チャイルド・スポンサーシップの仕組みや支援活動の成果について、わかりやすくご紹介します。1 時間程度のためお気軽にご参加いただけます。

イベントは参加費無料です。参加ご希望の方は事前にホームページ、E メール、お電話にてお申込みください。（締切は開催日の３日前です）

昨年６月に北海道で開催されたWVカフェの様子

東京 講座 日時：3月16日(水) 14:00～15:15
会場：WVJ 東京事務所
東京都中野区本町 1-32-2
ハーモニータワー 3F
TEL :03-5334-5351

兵庫 カフェ 日時：4月23日(土) 14:00～16:30
会場：神戸市産業振興センター　貸し会議室
神戸市中央区東川崎町 1-8-4
(神戸ハーバーランド内)
TEL：078-360-3200

京都 講座 日時：4月24日(日) 10:00～11:15
カフェ 日時：4月24日(日) 14:00～16:30
会場：京都テルサ（京都勤労者総合福祉センター）
東館２階 中会議室
京都市南区東九条下殿田町70番地
京都府民総合交流プラザ内
TEL：075-692-3400

埼玉 講座 日時：5月15日(日) 10:00～11:15
カフェ 日時：5月15日(日) 14:00～16:30
会場：ソニックシティビル　6階 604 会議室
さいたま市大宮区桜木町 1-7-5
ソニックシティビル 6F
TEL：048-647-4111

愛知 カフェ 日時：5月21日(土) 14:00～16:30
場所：ウィルあいち　愛知県女性総合センター
特別会議室（2F）
名古屋市東区上堅杉町1番地
TEL：052-962-2511

宮城 カフェ 日時：6月18日(土) 14:00～16:30
場所：仙台青葉カルチャーセンター
4階 403号
仙台市青葉区一番町 2-3-10
カルチャー仙台ビル
TEL：022-225-2698

支援地訪問ツアーのご案内

「地球あちこち～エルサルバドルを知る旅」
中央アメリカに位置するエルサルバドルは、海、湖、火山、熱帯雨林などの自然と、様々な歴史、文化、民族が混ざり合う多様性が魅力です。エルサルバドルに住むチャイルドを訪問し、心に残る素晴らしい体験をしてみませんか？まずはお問い合わせのうえ、資料をご請求ください。

訪問先：　ティエラ・ヌエバ ADP (SLV-181324)
　　サンアグスティン ADP (SLV-190776)
期　間：　2016年 5月21日(土)～5月29日(日) 9日間
参加費：　約 336,000 円（参加人数により変動します）
参加人数：　20人（最小催行人数14人）

●参加はチャイルド・スポンサーの方とそのご家族に限らせていただきます。訪問国の治安状況や感染症の影響等により、ツアーを中止させていただく場合があります。
●メールにて資料請求の場合は「エルサルバドル訪問ツアー希望」とお書きください。

前回のエルサルバドル支援地訪問ツアーの集合写真

コンタクトセンター（支援者窓口）
TEL:03-5334-5351（平日 9:30～17:00）Eメール :dservice@worldvision.or.jp

ルワンダの子どもたちと一緒に
（撮影 /Kosuke Mae）

世界に思いをはせて VOL.4　事務局長　片山信彦

日本にも貧困はあるので、海外の貧困問題はその国の政府に任せて、日本の問題に取り組むべきだとのご意見をよくいただきます。確かに日本の貧困家庭にいる子どもたちや親への支援は必要です。また、確かに途上国政府が対応すべきことですが、干ばつや洪水などの自然災害が多発したり、内戦や紛争で国の運営がままならなかったりする国があります。財政状況が悪く、統治がしっかりしていない途上国も多いのです。翻って、私たち日本を考えてみますと、太平洋戦争後、ララ物資というのがありました。私は幼い頃、ララ物資による脱脂粉乳のミルクを飲んだ記憶がありますし、学校給食が可能になったのはララ物資のおかげだと聞いたことがあります。このララ物資（Licensed Agencies for Relief in Asia）は戦後日本に送られた援助物資でアメリカ合衆国を中心にした民間の人々の善意の結実でした。また、新幹線も高速道路も世界銀行からの借り入れで建設ができました。つまり、私たちは海外からの支援で戦後立ち上がることができた国民です。その経験を生かし他国の困難の中にある人々を助け、成長への手助けをする国・市民であることは素晴らしいことではないでしょうか。